

関東森林管理局保護林管理委員会 小笠原諸島森林生態系保護地域部会報告



1 令和6年度小笠原諸島森林生態系保護地域における主な事業

(1) 固有森林生態系修復事業

- ・アカギ、モクマオウ等の外来植物の薬剤駆除、
抜取り駆除、特殊伐採
- ・在来植物の移植・播種
- ・駆除の影響及び効果を検証する事前及び事後モニタリング

令和6年度小笠原諸島固有森林生態系修復業務内訳

工種	面積 (ha)	本数 (本)	材積 (m ³)
薬剤駆除	89.73	30,250	367
伐採・巻き枯らし	3.68	38	17
抜き取り	102.31	—	—
移植・播種	15.61	370	—
メンテナンス	4,400	(単位:m)	—

メンテナンス=グリーンアノール防衛柵周辺の樹木のトリミング作業

※修復事業における最近の課題

- ・外来樹木駆除後の下層に外来草本が侵入
- ・崖地に分布している外来種の駆除手法の確立
- ・事後モニタングポイントの増加



アカギの特殊伐採の様子

(2) 希少鳥類のモニタリング（母島）

- ・オガサワラカワラヒワの生息状況のモニタリング及び標識調査を実施
- ・今年度は28個体に標識を装着



オガサワラカワラヒワの標識装着

(3) 指定ルートモニタリング

- ・利用による植生等への影響の把握及び危険箇所の把握
- ・令和5年度の調査では、利用による大きな影響は見られない



指定ルートモニタリングの様子

(4) オガサワラグワ個体群の保全

- ・実生苗の周囲にベイトステーションを設置
- ・シマグワとの交配防止のため、弟島北に位置する孫島のシマグワの駆除を優先的に実施



ネズミ対策としてベイトステーションに殺鼠剤を補充

2 令和6年度小笠原諸島森林生態系保護地域部会での主な審議内容

(1) 指定ルートの評価

- 指定ルートの特徴や現状、課題について指定ルート毎に調査・評価を実施
- 全指定ルート31ヶ所のうち、現在までに父島20ルート、母島9ルートの評価を完了
- 今年度中に全指定ルートの評価を完了予定

(2) 指定ルートの新設・廃止の検討

- 地元観光協会等からの要望を受け、新たなルートの開設を検討
- 開設以来、利用頻度が極端に少ない指定ルートについて廃止を検討
- 指定ルートの開設及び廃止について村民説明会を開催

指定ルートの概要【父島:夜明山西ルート(仮称)】

＜基本情報＞																																	
ルート名	夜明山西(仮称)	全長	660m	国有地割合	71%	利用期間	適年																										
概要	ルートの周辺には多数の戦跡が散在し、主にガイアツアールと結びつけられて利用されている。夜明山西ルートは、ロウソク製炭台ルートは戦時からの眺望がよく、眺望を目的として利用される。また、ルート沿いにあるムニンボタンの植栽地もガイアツアールで利用される。																																
調査	香煙系保全事業のアクセス道(ノコ)対策・乗込植物・アカガシラカラスバト・オガサワラノリ調査等として利用されている。																																
現状	夜明山西ルートは、ロウソク製炭台ルート周辺には在来植物の植栽地(村元の森)があり、植栽地管理のために利用される。 夜明山西ルート入口から数メートルは無舗装歩道のアクセス路として利用されている。 夜明山西ルートはムニンボタンの植栽地、ノコボタンの存在しており、夜明山西ルートは南側・北側ルートの2本があり、いずれも無舗装歩道で、費用対効果を高く利用する。後継はいずれもルート外であるが、利用による立ち入りは確認されている。 →開設希望ルートは夜明山西ルートと夜明山西ルートとを結ぶルートであり、ルート周辺には戦跡(塹壕、機銃跡、砲台、貯水機、食器等)が多く散在し、展望地や憩い場もある。夜明山西ルートは、ガイアツアールに利用されるとともに、調査等で使われる踏み分け道もあり、正統ルートとの区別の明確な線引きがある。																																
評価	→継続する夜明山西ルートは香煙系保全事業(418)によると、調査当時から戦跡を対象とした観光利用がなされており、戦跡までの踏み分け道は当時からの明瞭となっていた。なお、香煙系保全事業(H18)では、今回の踏分道は当該調査の対象とされていないが、付近に夜明山西コースという名称が存在している。 →開設希望ルート付近には、日本軍の方角等の戦跡がある。 →H19年度の夜明山西ルート検討時に「戦跡を観光、教育等に利用するのであれば、管理者を明確にして、安全の確保を図るべき」と「戦跡は数を減らすべき」という意見が出ているが、その後、戦跡の管理についての協議がなされていない。 →開設希望ルート等では、オオシマタマカズラやシマツバキ、シヨウトカットルートではオオシマタマカズラやシマツバキ、開設希望ルートではマツバ(シマツバキ)種が確認されている。 →開設希望ルート及びシヨウトカットルート付近には、ノコ対策のために植栽されたカゴツバが置かれており、定期的に調査されていることから踏み分け道は十分に維持されていると判断は少ない。 →H18年度香煙系保全事業(小笠原)では夜明山西ルート付近においてアカガシラカラスバト(H19年1月に確認)が確認されたとの記録あり。 →開設希望ルート付近はオオシマタマカズラの群生等による植生による、入口付近ではオオシマタマカズラやシマツバキ等の在来植物が確認されている。																																
ルートの環境	→継続する夜明山西ルート入口には戦跡や種子除去設備が設置されているが、経路を示す看板や戦跡が設置されていない。 →開設希望ルートについては、夜明山西ルートへ結合、シヨウトカットルート及び開設希望ルートに関しては(仮称)夜明山西ルートとする。																																
ルートの整備等	→継続する夜明山西ルート入口には戦跡や種子除去設備が設置されているが、経路を示す看板や戦跡が設置されていない。 →開設希望ルートについては、夜明山西ルートへ結合、シヨウトカットルート及び開設希望ルートに関しては(仮称)夜明山西ルートとする。																																
＜指定ルートモニタリング(全線調査及びポイント調査)から得られている情報＞																																	
植生の状況	<table border="1"> <tr> <td>植生の状況(点検)</td> <td>特に大きな変化は確認されていない。</td> </tr> <tr> <td>経路・土壌の変化(点検)</td> <td>特に大きな変化は確認されていない。</td> </tr> <tr> <td>★種子除去装置</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>★外来木の分布</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>★外来木の分布</td> <td>有</td> </tr> </table>							植生の状況(点検)	特に大きな変化は確認されていない。	経路・土壌の変化(点検)	特に大きな変化は確認されていない。	★種子除去装置	無	★外来木の分布	有	★外来木の分布	有																
植生の状況(点検)	特に大きな変化は確認されていない。																																
経路・土壌の変化(点検)	特に大きな変化は確認されていない。																																
★種子除去装置	無																																
★外来木の分布	有																																
★外来木の分布	有																																
利用状況	<table border="1"> <tr> <td>入口の状況</td> <td>明確</td> </tr> <tr> <td>戦跡(目立つもの)</td> <td>多</td> </tr> <tr> <td>ロープ等の設置</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>調査利用用途</td> <td>ノコ</td> </tr> <tr> <td>案内板</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>防犯設備</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>カウチングシステム</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>★看板(記号・経路)</td> <td>無</td> </tr> <tr> <td>★ルートの明確さ</td> <td>不明</td> </tr> <tr> <td>★踏み分け道</td> <td>少</td> </tr> <tr> <td>★経路の分かりやすさ</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>★土壌保護・法面保護等</td> <td>有</td> </tr> <tr> <td>★枯死木・倒木等</td> <td>有</td> </tr> </table>							入口の状況	明確	戦跡(目立つもの)	多	ロープ等の設置	無	調査利用用途	ノコ	案内板	有	防犯設備	有	カウチングシステム	無	★看板(記号・経路)	無	★ルートの明確さ	不明	★踏み分け道	少	★経路の分かりやすさ	有	★土壌保護・法面保護等	有	★枯死木・倒木等	有
入口の状況	明確																																
戦跡(目立つもの)	多																																
ロープ等の設置	無																																
調査利用用途	ノコ																																
案内板	有																																
防犯設備	有																																
カウチングシステム	無																																
★看板(記号・経路)	無																																
★ルートの明確さ	不明																																
★踏み分け道	少																																
★経路の分かりやすさ	有																																
★土壌保護・法面保護等	有																																
★枯死木・倒木等	有																																
生態系保全面での課題など	<p>課題: 開設希望ルート周辺には令和6年6月の大雨等により、リュウキュウマツ等の倒木が確認されている。 →対策: リュウキュウマツは固有種に存在しているが、径径が太く除去が困難である。</p>  <p>課題: 開設希望ルート周辺では枯死木や倒木が確認されている。倒伏や枯枝の落下に伴う通行者の危険が懸念される。 →対策: ルートに生じた倒木等は伐倒による処理するなど、作業を進める予定(国有地のみ)。落ちた作業が可能な箇所については黄色の標識テープにより危険木の存在を周知し、通行者の注意喚起を行う予定。 課題: ショウトカットルート、開設希望ルートについては、ルート分岐やルートを示す標識や看板等が設置されていないため、ルートが不明瞭である。 →対策: ルート分岐やルートを示す標識や看板等の設置については、順次対応する。 課題: ショウトカットルートや開設希望ルート周辺には塚や戦跡等の戦跡が多い。ガイド等がルート外の利用もあり、それらの場所ではモニタリング等は実施されておらず安全が確認されていない。 →対策: R2年度までは夜明山西ルート以外の戦跡までの踏み分け道もモニタリングしていたが、主ルートからの距離があるため、R3年度から対象外とした。戦跡の管理体制構築が課題(開設後に改めて検討が必要)。 課題: 開設希望ルート周辺にオオシマタマカズラが生育している。量産が突っており、通行者に刺さる危険がある。 →対策: 開設希望ルート沿いの定期的な外来植物駆除が必要。近年、ルート沿いのオオシマタマカズラの駆除が実施されている。</p>																																
管理・利用面での課題など	<p>課題: 開設希望ルート周辺には令和6年6月の大雨等により、リュウキュウマツ等の倒木が確認されている。 →対策: リュウキュウマツは固有種に存在しているが、径径が太く除去が困難である。</p>  <p>課題: 開設希望ルート周辺では枯死木や倒木が確認されている。倒伏や枯枝の落下に伴う通行者の危険が懸念される。 →対策: ルートに生じた倒木等は伐倒による処理するなど、作業を進める予定(国有地のみ)。落ちた作業が可能な箇所については黄色の標識テープにより危険木の存在を周知し、通行者の注意喚起を行う予定。 課題: ショウトカットルート、開設希望ルートについては、ルート分岐やルートを示す標識や看板等が設置されていないため、ルートが不明瞭である。 →対策: ルート分岐やルートを示す標識や看板等の設置については、順次対応する。 課題: ショウトカットルートや開設希望ルート周辺には塚や戦跡等の戦跡が多い。ガイド等がルート外の利用もあり、それらの場所ではモニタリング等は実施されておらず安全が確認されていない。 →対策: R2年度までは夜明山西ルート以外の戦跡までの踏み分け道もモニタリングしていたが、主ルートからの距離があるため、R3年度から対象外とした。戦跡の管理体制構築が課題(開設後に改めて検討が必要)。 課題: 開設希望ルート周辺にオオシマタマカズラが生育している。量産が突っており、通行者に刺さる危険がある。 →対策: 開設希望ルート沿いの定期的な外来植物駆除が必要。近年、ルート沿いのオオシマタマカズラの駆除が実施されている。</p>																																

(3) オガサワラビロウの活用

- ・昨年度の小笠原部会で、オガサワラビロウの採取について合意
- ・引き続き採取可能区域を検討
- ・母島では陸産貝類の保全の必要性から採取可能な箇所が限定



オガサワラビロウ



オガサワラビロウ葺きの屋根

(4) 戦跡等の扱いの検討

- ・国有林内には、旧日本軍が設置した特殊地下壕等の戦跡が点在
- ・観光資源として戦跡ツアーに活用
- ・地下壕が経年劣化、安全管理が課題



特殊地下壕（父島夜明山）



大砲（母島）

(5) オガサワラグワの保全の情報共有

- ・保護増殖計画が策定されておらず、各機関が可能な範囲で保全を実施
- ・各機関が実施しているオガサワラグワ保全対策の情報共有の場として小笠原部会を活用

3 令和6年度小笠原諸島森林生態系保護地域関連トピック

(1) ガイド及び観光客による外来草本の抜取り

- ・令和6年4月1日から千尋岩ルートにおいて、ガイド及び同行する観光客による外来草本の抜取りが可能な制度を導入

(2) 南島でグリーンアノールの侵入を確認

- ・令和6年4月に南島において、特定外来生物のグリーンアノールの侵入が初確認
- ・関係機関により捕獲調査が行われたが未発見

(3) 公益的機能維持増進協定を締結

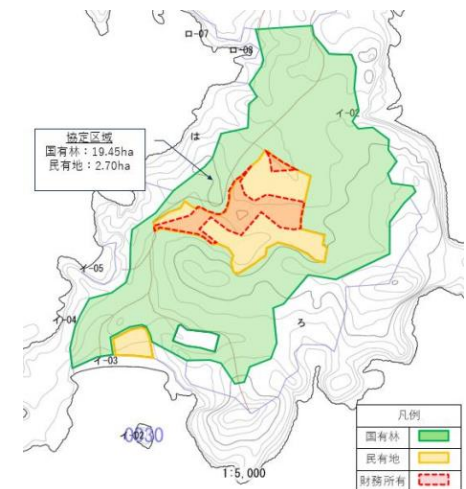
- ・令和6年9月17日付で、母島南崎民有地所有者と協定を締結
- ・国費により、民有地の周囲の国有林と一体的に外来植物駆除を実施することで効果的な駆除が可能

(4) 小笠原諸島森林生態系保護地域回復ボランティア

- ・令和6年11月26日～12月1日
(実施日11月28日、29日)
- ・参加予定 本土8名、母島4名
- ・モクマオウ等の駆除、在来種の植栽等を実施



千尋岩ルート



公益的維持増進協定箇所
(母島南崎)

4 令和6年度小笠原諸島森林生態系保護地域関連スケジュール

(主な会議等)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
修復検討委員会	6/25							●—●		
現地連絡会			7/10		9/20			●—●		
小笠原部会 ※1						11/8			●—●	
事業報告会、講演会										●—●

(主たる実施内容)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事前モニタリング	●	●								
事後モニタリング		●	●		●	●	●			
各種外来植物駆除	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
防衛柵メンテ・モニタリング			●	●			●	●	●	
植栽・播種	●	●				●	●	●		
シロアリモニタリング	●	●			●	●				
指定ルートモニタリング				●	●	●	●	●		

※1：正式名称は「関東森林管理局保護林管理委員会小笠原諸島森林生態系保護地域部会」